

その目で見ないかぎり

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2953号
(2011年12月2日発行)より

日が少し暮れかかっていました。ぼんやり歩いていたら、いつのまにか、知らないお店の前に立っていました。よく見ると、そのお店は、めがね屋さんでした。街によくあるような、明るいショーウィンドーのお店ではなくて、うっかりすると通りすぎそうなほど、ひっそりとそこに建っていたのです。

「のぞいていきますか？」

おだやかな笑顔をされたおじいさんが、なかからあらわれて言いました。

「あ…はい」

私は、つられて返事をしてしまいました。そんなには悪くないから、めがねなんて必要ないのに…なんて思いながら。

なかに入ってみて、おどろきました。ずいぶん変わったかたちのめがねが、たくさん置いてあったからです。

「どうぞ、気に入ったものをかけてごらん下さい」。おじいさんにうながされて、私は、そばにあった、めがねを手にとってためしに、かけてみました。

「きゃっ」

その瞬間に、私は思わず、めがねをはずしていました。かけた瞬間に、目の前がぐにゃ〜っと、ゆがんだような気がしたから

です。

「おやおや、それは…」。おじいさんは、ゆかいそうに笑いました。「魚のめがねです。ほら、魚眼レンズって、聴いたことあるでしょ」

「え、ええ…」

よくわからなかったけれど、こんなめがねはまっぴらです。

「では、こんなめがねは、いかがですか？」

そう言って、おじいさんがわたしてくれためがねを、私はかけてみました。とたんに、目の前が何も見えなくなりました。「え？…どういうこと？」。次の瞬間、おじいさんが、目の前で、手を、ひらひら振っているのが見えました。

「これは見えますね？」

「え…ええ」

でも、次の瞬間、また何も見えなくなりました。あわててめがねをはずすと、おじいさんは、ちゃんと目の前にいました。

「これはね、ヒキガエルのめがねなんです。ヒキガエルは、動いているものの姿しか見ることができないんです」

「どうして、ヒキガエルのめがねなんておいてあるの？」

「お店には、いろいろなかたが、来ますからねえ」

おじいさんは、またにっこり笑って言いました。

それから、おじいさんは、店内を案内して、いろいろなめがねを見せてくれました。5

キロも先まで見通してしまえる、ワシのめがね。暗闇のなかでもよく見えるネコのめがね。うしろまでぐるりと見える、ウマのめがね。私は、不思議な気持ちと、こわい気持ちが、半々に湧いてきました。

「もっと、普通のめがねはないの？」

「普通…ですか」

おじいさんは、ちょっと考えて、近くにあっためがねを手にとりました。

「これなんか、どうでしょう」

そのめがねをかけると、目の前ははっきり見えるけれども、両脇は、ぼんやりかすんで、よく見えないのでした。

「これはね、ヒトの子どものめがねです」

「子どものめがね？」

「7歳くらいまでの子どもは、普通、視界がせまくて、両脇がよく見えないんですよ。『きよろきよろしないで』って叱られているお子さんがいますけど、きよろきよろしないと、両脇が見えないんです」

「そうなんだ。知らなかった…」

そのとき、私は、ふと、気がつきました。そういうことって、言われてみないと、わからないなあ…って。魚の目も、ヒキガエルの目も、ワシの目も、ネコの目も、ウマの目も、ヒトの子どもの目も、その目で見ないかぎり、どんなふうに見えるのか、わからないのです。同じ目をもっていても、見えかたは、それぞれ、まるでちがうのです。

そこで、私はようやく思い出しました。なぜ、自分が、こんな夕暮れに、ひとりで、とぼとぼと歩いていたのかを。その日、私は大切

な友だちと、けんかをしてしまったのです。友だちが、自分の気持ちをわかってくれないような気がして、かなしくて、泣きながら飛び出してしまったのです。

胸のなかに、忽然と、言いようのない思いが、わき上がってくるのを感じました。

本当に、わかってくれなかったのは、友だちだったのだろうか。私のほうこそ、友だちの気持ちを、わかろうとしていなかったのではないだろうか。まるで、自分のめがねで、相手のところを見るように。相手のめがねと、自分のめがねが、同じものだと思いこんで。

はっと気づくと、私は、街角に、ひとりで、たたずんでいました。さっきのめがね屋さんはどこにもありませんでした。おだやかな笑顔のおじいさんも、どこにも見当たりませんでした。

代わりに、静かに、涙がこみあげてきました。涙は、止まることを知らず、あとからあとから、あふれてくるのでした。私は、ぬぐうこともせず、ただ、その場に立ち尽くしていました。やがて、携帯電話の赤いランプが点滅して、聴き慣れた、呼び出し音がひびくまで。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2011年10月、2900号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講義は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>